2019 1.11 配信

月刊 サンエスウォッチング Vol.7

【新年挨拶】

明けましておめでとうございます。
今年は５月の改元を控えて新たな時代が幕を明けます。
平成の時代よりさらに便利な次代を迎えようとしている中で、優しい移動手段として、自然や季節を肌身で感じられる自転車が､心と体の健康にとってもますます重要になってくると感じています。
私たちは自転車に乗る人たちに寄り添い、自転車によって得られるそれぞれの豊かさの実現に貢献できる存在であり続けたいと思っています。
新しい年が皆様にとって幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成三十一年一月　代表取締役　坂井美紀

「筧五郎選手がシクロクロス全日本選手権マスターズで４連覇達成」

レース直後の JFF#805Z

４連覇を達成した筧五郎選手とメカニックの横井さん (Quest 日進)

昨年 12 月に滋賀県マキノ高原で開催された同大会年齢別マスターズカテゴリー「40~44 歳」で、筧五郎選手が４連覇を果たしました。
筧選手は JFF#803/#803Z/#805、そして今回の #805Z を年代毎に乗り継ぎ使用しています。
尚、ハンドルは Dixna アグリーハンドルバーや OnebyESU ジェイカーボンスーパーアグリー、スージーステムなどを使用しています。

OnebyESU JFF#805Z サンドシルバーモデル (販売はフレームまたはフレーム＆フォークとなります)

[筧五郎選手の JFF#805Z の感想]

シクロクロスのレースコースは未舗装区間が多く、路面状況も毎周回変化して行きます。
特にドロドロで柔らかいと、力任せにペダリングするだけではタイヤが路面を捉える前にスリップしてしまいますが、#805Z はディスクブレーキとスルーアクスルにより剛性も高まってコントロール性が向上しました。
素材のアルミはしなやかさがあり、レース後半まで踏むことができるとともに、バイクの突き上げが少なく路面状況を把握しやすいため、結果としてペダリングした力を効率よく伝えることが容易なフレーム & フォークと言えるでしょう。

「坂口聖香 選手が関西シクロクロスで優勝」

約１年振りの CX 出場となった第５戦 希望ヶ丘。後方スタートの坂口選手はテクニカルでパワフルなライディングで全選手をパスし先頭に立ち、時間差で先にスタートした男子選手をも巧みにかわしながら他を圧倒して優勝しました。
使用機材は JFF#805Z をはじめ OnebyESU 製品及び Dixna ラ・クランク 165mm を使用しました。

(写真左) JFF#805Z の S サイズを使用　©bikin!tv
(写真右) 見極め良く男子選手をパスしながら進む　©bikin!tv

[坂口聖香選手の JFF#805Z の感想]

細かく右に左にと切り返す区間でバイクを倒し込んだ時の反応が良く、取り回しがコンパクトに収まり、レースでの走行自体が楽しいと思えるほどでした。
前後のタイヤグリップに対してもコントロールしやすく、踏んだ分素直に進んでくれるし、降車時にも軽量で扱いやすく、全体のバランスがとても良いバイクだと思います。

「チーム ユーラシア 花田聖誠選手がジェイ・クランクを使用」

橋川健監督が率い、ベルギーを中心として若手をメインに活動する同チームは、本年で 10 年目を迎えます。
現在多くの選手が Dixna のハンドルや OnebyESU のサドルを使用しており、中でも花田選手は 2017 年に Dixna ラ・クランクを　2018 年７月から OnebyESU ジェイ･クランクのテストモデルを実戦使用しました。身長は 170cm そこそこでありながらクランク長は 160mm を使用し､レースの現場でも選手によっては短いクランク長が有効であることを証明しています。尚、サドルは OnebyESU ナロウサーティーを使用しています。

ジェイ・クランク 160mm テストモデルをベルギーでの実戦で使用する花田選手

BK クランクと SL チェンリングなど２色を自由に組み合わせられる

[花田聖誠選手のジェイ･クランクの感想]

最初に踏み込んだ時にクランクの硬さに驚きました。ラ・クランクのシナリ感をジェイ・クランクは感じることなく踏み込むことができます。チェンリングが一体成型で剛性も高く変速性能はスムーズで、特に登り坂で高いトルクが掛かっている場面や下り直前での激しい変速場面でもスムーズで抵抗のない変速が可能です。

次回の月刊サンエスウォッチングは 2/8 の配信予定です。

TOKYO SAN-ESU CO.,LTD.